

日時:2016 年 5 月 10 日(火) 13:30~14:45

出席者:岡藤社長、岡本 CSO・CIO、鉢村 CFO、関経理部長、貝塚業務部長

用語:CF=キャッシュフロー、FCF フリー・キャッシュ・フロー、CP=チャロン・ホカパン

① 【15 年度決算・16 年度計画】

Q:中計で掲げている 4,000 億円を今後どのようにして達成するのか。

A:今回の短計においては資源価格等の前提条件を保守的に設定し、中計策定時点の前提に置き換えれば、バッファーを除き実質的に 4,000 億円レベルの計画。よってまずは、今期 3,500 億円を着実に達成し、来期はそれを超える計画が立てられると考えている。

Q:15 年度における減損処理決定のタイミングについて。また今後追加減損の可能性は。

A:一部は当初見通しに含めていたが、追加で 4Q に減損処理を実行。一気に処分を進め、来期に備えることとした為、来期の計画 3,500 億円は十分達成可能と考えている。

Q:FVTOCI 金融資産 2,200 億円減少の内訳について。

A:株主資本は 2,400 億円の減少。当期純利益で 2,400 億円の増加と配当の 790 億円程度のキャッシュアウト。加えて、その他の資本の構成要素で、株・為替の変動により約 3,900 億円減少した。株・為替の変動のうち約 2,000 億円が FVTOCI 金融資産関連であり、ドラモンドにて 800 億円弱の減少、及びその他保有株や一般投資関連で減少した。

Q:基礎収益について。為替や資源価格の影響を除いた場合、どの分野で利益が伸びるのか。

A:非資源分野だけでも 15 年度 2,400 億円の実績が、16 年度は 3,670 億円まで増益となる計画。16 年度に 484 億円から 600 億円に伸びる機械を筆頭に、住生活等も力をつけている。

② 【CF 関連】

Q:16 年度の投資 CF の出方は。また今後狙う投資分野は。

A:15 年度は CITIC 投資を行ったこともあり、投資実行を抑制していたが、今期からは積極的に投資したい。投資分野としては、従来通り非資源、生活消費関連分野であり、その点は変わらない。また今一番力を入れているのが機械であり、得意分野を見定めて投資をしていきたい。

Q:中計全体に亘る CF の考え方について。今後の実質的な FCF の推移は。

A:16 年度 CF 計画について、営業 CF は 15 年度とほぼ同じレベル感を想定。中計における実質的な FCF を毎期 1,000 億円以上黒字にしていく方針は変わっておらず、中計初年度で実質的な FCF が 4,000 億円出た実績に加え、今後 16、17 年度の毎期 FCF1,000 億円ずつ出すことが出発点。一方、今後良い案件が出てきた場合、投資の考え方により、FCF が若干タイトになることも想定されるが、中計における実質的な FCF を毎期 1,000 億円以上黒字にしていく考え方がある以上、当初想定していた実質的な FCF が 3 年間合計で 3,000 億円強とイメージしたものより多くなるのではと考える。

③ 【CITIC・CP 及び中国関連】

Q:CITIC・CP との協業について。16 年度見通し、狙っている分野、収益貢献における時間軸は。

A:CP 分の資金立て替えが 3 月末に返済され新規投資に係る懸念が解消。シナジー案件について、まずは足元で 16 年上期中に纏めたい案件がある。これに注力し、上期中に立ち上げたいと考えている。

Q:CITIC の 16 年度計画 700 億円の算出前提は。

A:CITIC は 8,000 億円程度の利益を安定的に計上。資源関連等の減損懸念はあるも、当社は取得時の評価で処理済。よって、8,000 億円の 10%持分=800 億円から、税金、金利等 100 億円控除後にて想定。

Q: CP の CITIC 投資に関する資金調達、また CP への 400 億円の融資に関する返済リスクについて。

A: CP の資産背景等を考慮すれば 400 億円の返済については心配していない。CP からは期前返済を検討したいという意向も示されている。

Q: 中国に関する見方について。

A: 当社は生活消費関連を伸ばすと言っており、中国の景気が悪くても中国に代わる場所はない。かつてほどの右肩上がり成長するとは考えてないが、我々も様々な工夫をして取り組んでいく必要がある。CITIC と組み彼らの情報を活かして投資を行うことにより、様々なリスクにも対応が可能。また CP にはこの分野での様々なノウハウがあり、中国企業と組む際には大いに役立つ。

Q: 今後 CITIC で更に減損を認識した場合の影響は。

A: 金融債権・Sino Iron を含む資源関連資産に対する PPA 処理により、現時点では概ね対応済。

#### ④ 【その他】

Q: ドールの状況。16 年度以降のアジア青果物事業の収益改善について。

A: パッケージ事業は順調であり、青果物事業のパイナップルにおいても、農園買収等を実施し順調である。一方バナナは、主な産地であるフィリピンで、台風と病気の蔓延による生産の問題がある。現在、フィリピンで病気の懸念がない新しい農園の買収を検討中。よって現状、農園確保に問題が絞られてきた。また、ドールで遅れていたリストラも断行中。ドール事業は早期に軌道に乗せる。

Q: 16 年計画における鉄鉱石価格前提は。

A: 実数は非開示、但し説明資料記載の 1Q 足元価格に近いレベルから大きく外れるものではない。

Q: 今後の社長任期について。

A: FM・ユニーは今後リストラ等を済ませ、統合後の体制は今期中に決まる。また、CP・CITIC 案件についても用途をつけた後に、後継者を見極めてバトンタッチする事が必要だと認識している。

以上